

本日〈4月22日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「手に手つないで」
- ◆ 献立 週替わり弁当
- ◆ 卓話 イニシエーションスピーチ
北村 敦 会員



写真提供 小池 将夫

司 会 馬場 佳子 副幹事

特別行事

◆入会式

点 鐘 小山 市康 会長



新会員 伊藤 慎 会員

斉 唱 「それこそロータリー」
ソングリーダー 池田 広樹 会員

四つのテスト 森永 健 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 平井 誠二 様 (ゲストスピーカー)
梅澤 徹 様 (例会見学者)

2021-2022年度 RI 会長 シェカール・メータ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

第2590地区 ガバナー 小倉 正

会 長	小 山 市 康	会 計	渡 邊 淳
会長エレクト	赤 堀 伽寿一	副 会 計	長 野 毅
副 会 長	横 溝 亘	S A A	古 澤 一 憲
副 会 長	加 藤 仁 昭	副 S A A	加 野 亮 一
幹 事	友 添 辰 哉	副 S A A	吉 田 隆 男
副 幹 事	馬 場 佳 子	クラブ会報	清 水 茂 夫

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

会長報告

小山 市康 会長

- ・4月度定例理事会・持ち回り臨時理事会報告
- ・台北滬尾RCより、創立16周年記念式典が4月16日に開催される旨、連絡が来ております。
- ・キャメロットの宴会場が6月末で閉鎖されることとなり、7月からの例会場を現在検討しております。

幹事報告

友添 辰哉 幹事

- ・横浜港北RC創立60周年記念式典のご案内が来ておりますので、回覧を致します。事務局より出席者の取りまとめを致しますので、出席を希望される方はお名前を記入願います。
- ・地区より、『岩沼市千年希望の丘 育樹活動へのお誘い』が来ておりますので、回覧致します。
- ・東京東大和ロータリークラブ創立50周年記念講演会の案内が来ておりますので、回覧致します。

入会記念日祝

河野 明光 会員（4月18日）



スマイルボックス

吉田 隆男 副SAA

河野明光君 本日、入会記念をお祝い頂き、ありがとうございます。

小山市康君 ①一気に寒くなりました。②平井誠二様、楽しみにしていました。本日、よろしくお祈りします。③伊藤慎さん、入会おめでとうございます。梅澤徹様、ごゆっくりなさってください。

友添辰哉君 春ですね。毎日タケノコを食べています。煮物、タケノコご飯、取れたてのタケノコで作るチンジャオロースは最高です。

月山 勇君 吉田副SAAが読み上げだということで、半分仕方なく・・・(>_<)

山本 登君 雨ですね。

植田清司君 伊藤さん、入会おめでとうございます。ロータリーを楽しんで下さい。

中野真理さん 所用にて早退致します。

加野亮一君 寒いです。ヒートテックの復活です。

角野弘幸君 伊藤様、入会おめでとうございます。

北村大輔君 ①伊藤さん、入会おめでとうございます。②平井様、卓話、楽しみにしております。

吉田隆男君 伊藤さん、入会大歓迎致します。

4月15日	11件	21,000円
本年度累計		1,171,550円
年度目標進捗状況		-32%

港北の地名と鶴見川の水害

公益財団法人大倉精神文化研究所 理事長 平井 誠二 様
(紹介者 茂木 知子 会員)



港北区は、昭和14年（1939）の横浜市域拡張で成立しました。その時は、現在の緑区、青葉区、都筑区を含む広い地域でした。現在「北部4区」と呼ばれるこの旧港北区域は、そのほぼ全てが鶴見川の流域内にあり、流域面積の半分を占めています。

北部4区の中でも現港北区は、長い間鶴見川の恩恵と被害の両方を受けてきた歴史があります。その鶴見川との関わりは、

出席報告

北村 大輔 出席委員長

会員総数	48名	(29+19)名	
出席会員数	37名	(22+15)名	
出席率	84.09%		
ゲスト	2名	ビジター	0名
前回補正後	82.93%	前々回補正後	88.64%

表紙の写真 T27



里山的な景観を持つ敷地に造形的に配置されて花壇に咲き乱れる花々はとても美しく里山ガーデンフェスタを訪れる人の心を優しく癒している気がします。

開催は5月8日（日）迄です。

【写真提供 小池 将夫 会員】

地名から読み取れます。

昔の鶴見川は堤防が整備されておらず、大雨が降る度に氾濫した濁流が流域住民に多くの被害を与えたことから、暴れ川と呼ばれていました。都筑区川向町は、昔小机村（港北区小机町）の一部だったものが流路変更で飛び地になり成立したものです。他にも、川の周囲には川向地名や飛び地がいくつもありました。町名を見ても、鳥山、新羽、太尾（大倉山）、新吉田、綱島等は、川沿いの湿原や氾濫により水没する場所など、川に因んだ地名と言われています。小字と呼ばれる小地名を見ても、川沿いには低湿地であることを表す土腐、窪、沼、蛇、袋、茅などの語が付く地名が数多くあります。地形図を調べると、丘陵部では濁流で大きく削られたと思われる跡を確認することもできます。

一方で、鶴見川が氾濫すると上流から豊かな土壌が運ばれてくるために、農業生産上の恩恵もありました。また、普段の鶴見川は、川舟が数多く往来する物流の大動脈でもありました。そのため、人々はリスクを覚悟して川の側に住み続け、流域には独自の生活文化が形成されていました。

近年、地域住民の中から、流域独自の文化を再評価する動きが始まっています。たとえば、現在建設中の港北区民文化センターでは、緞帳デザインが鶴見川を意識したものになっています。ほぼ鶴見川流域のみに分布してきた杉山神社について学ぶフォーラムも、5年間4回にわたって開催され毎回大勢の来場者がありました。

昨年からはまった「よこはま縁むすび講中」は、区境を越えた人々のつながり、文化交流を目指しています。

流域住民が河川改修を求めて大正10年（1921）に組合を作ってから100年が経過しました。この間に、鶴見川の防災は河川改修から総合治水、水マスタープランへと進み、水害の危険性は減り、それに伴って川は住民の生活から切り離されていきました。しかし、いま、地球温暖化により新たな災害の危険性が叫ばれています。国の施策も2020年に河川治水から流域治水へと、防災の方針を大きく転化しました。

こうして、現在地域住民と鶴見川との新しい関係性の構築が始まりつつあります。

ロータリーニュース

ウクライナに医療物資を届けるために 大陸を越えてロータリークラブが結束

医療物資をいっぱい積んだ2機の貨物輸送機がシカゴを出発。これらの物資は、現地の会員の協力を通じてウクライナ各地へと届けられます。

ロシアの軍事行為によるウクライナでの人道的危機が続く中、北米、アルゼンチン、ヨーロッパのロータリー会員が、米国のウクライナ人医師会との協力や自らのネットワークを駆使し、医療物資100トン超を収集しました。止血帯、止血ガーゼ、血圧

計など、集まった大量の医療物資は、2機の貨物輸送機でシカゴからヨーロッパに運ばれました。現地で最も必要とされる物資を特定するために、ロータリー会員が病院と毎日連絡を取り合っています。

国際ロータリー理事エレクトであるパット・メリーウェザー・アルジェスさん（ネーパービル・ロータリークラブ [米国] 会員）は、「ロータリーは、ネットワークを築き、人びとを結束させ、物事を成し遂げることに長けている」と話します。

必需品リストにある物資や機器を購入するため、北米とアルゼンチンのロータリークラブがリソースを寄せ集め、製薬会社や医療機器製造業者の知り合いを通じて物資を集めています。シカゴ近郊の病院が救急車1台を寄贈したほか、米国メイン州の会員は「Cアーム」と呼ばれる、爆弾金属片による負傷者のための可動式X線装置1台を確保しました。

こうした物資は、北米ウクライナ医師会（UMANA）が運営する倉庫に次々と集まっています。数百マイル離れた他州のロータリークラブからも、大型トラック数台分の物資が、シカゴのオヘア国際空港近くにあるこの倉庫に運ばれています。

倉庫内では、UMANAとロータリーのボランティアが、発送前の物資の整理と仕分け、梱包を行っています。発送費は数名から寄せられた寄付で賄われます。

「ロータリアンがほかのロータリアンに声をかければ、素晴らしいことが成し遂げられる」と話すのは、マーガ・ヒューコさん（シカゴ・ロータリークラブ会長）です。

マーガさんの夫である国際ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長兼CEOは、ウクライナ系米国人で、キウ・ロータリークラブの創立会員です。ヒューコ夫妻は、1990年代に5年間、ウクライナに住んでいました。

今年はじめ、マーガさんとシカゴ・ロータリークラブは、ウクライナの都市リヴィウのがん患者のための幹細胞保存施設の設立に向けて、シカゴとウクライナの医師たちと協力していました。この保存施設は、細胞を長期間保存し、より複雑な研究を支援することが目的でした。

戦争の勃発により、この活動の焦点は人道的支援へと切り替わりました。

「シカゴのウクライナ人コミュニティに連絡を取り、どう支援できるかを尋ねました。また、ウクライナ人医師たちとのつながりを通じてUMANAについて知りました」とマーガさん。1950年に創設されたUMANAは、会議や北米・ウクライナ間の医師の交流を通じて教育を促進しています。

戦争勃発後、UMANAのボランティアがウクライナへの医療物資の発送や、医師と製薬会社とのネットワークを通じた医療物資・機器の収集を開始。ほどなくして、このプロジェクトにロータリークラブも加わりました。

アルゼンチン出身のマーガさんは、母国の知り合いを通じてアルゼンチンのクラブからの協力を募りました。これらのクラブの会員も、それぞれの人脈を通じて資金や医療機器を集めています。

UMANAの倉庫を見学したマーガさんとメリーウェザー・アルジェスさんらは、このプロジェクトの効率の高さと規模の大きさに感心しています。

「ただ素晴らしいとしか言いようがありません」とメリーウェザーアンジェスさん。

「UMANAとの協力を選んだのは、シカゴのウクライナ人コミュニティとの強いつながりがあるからです。これまでにパレット約400個分の物資の仕分けと梱包を行いました」

引き続き、ウクライナ国内の会員が医療必需品リストを作成しています。外科医であるオルハ・パリイチェクさん（チェルカースィ・ロータリークラブ会員、トルコ・ウクライナ国際共同委員会のメンバー）は、毎晩病院に電話をかけて必要物資を確認しています。

病院への配達の手配は、チェルカースィに住むパリイチェクさんのほか、リヴィウやオデーサに住む会員が行っています。

ウクライナ国内外の会員によるこうした行動は、ロータリーのネットワークがもつ力を語るものだと、マーガさんは言います。

「戦争のただ中で、しかもロシア軍が病院を標的とすることもある中で、ウクライナ国内のロータリーボランティアたちが国中に物資を届けているという事実は、“超我の奉仕”以外の何ものでもありません」

ロータリーニュース

クラブ会員の広場

矢野 修二 会員

先週、岩手県北上の北上和賀ロータリークラブの小原紀実さんがクラブを訪ねてくれました。

あいにく、例会には出席出来ませんでしたが、私と事務局の田中さんと3人で、キャメロットジャパンで食事をしました。

以前、小原さんは、私どもクラブの岸根公園花壇の花植えにご参加頂いたことがあります。

今年度は、会長で頑張っていて、次年度も会長をやられるそうです。ご活躍をお祈り致します。



写真展のご案内

『ロータリアン小品展』が、反町の“美棟 TARATARA”にて開催。当クラブ 小池会員、角田会員、小山会員の作品が展示されています。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

Exhibition of Arts by
Rotarians
ロータリアン小品展

'22.4.20(水)-5.15(日)

会場 美棟 TARATARA

横浜市神奈川区反町1-5-8/1F
TEL.090-4395-5587
営業時間 / 16:00-23:00
定休日 / 月・火曜日 臨時休廊有
※営業時間は変更になる可能性があります。

珈琲のご用意がございます。
お近くにお越しの際は、
是非お立ち寄りください。

鈴木英里子 (川崎マリンRC 会員令嬢)
中村 裕一 (横浜戸塚RC)
山本 悦子 (横浜ベイRC)
村田 真一 (川崎南RC)
志村 幸男 (川崎麻生RC)
半澤 剛 (川崎北RC)
小山 市康 (神奈川東RC)
角田 伯雄 (神奈川東RC)
小池 将夫 (神奈川東RC)
五十嵐 正 (横浜旭RC)

Rotary

ロータリアン小品展 '22.4.20(水)-5.15(日)

会場 美棟 TARATARA

- ・東横線 反町駅より徒歩3分
- ・京急 神奈川駅より徒歩6分
- ・JR 東神奈川駅より徒歩8分

住 所: 横浜市神奈川区反町1丁目5-8 1F
電 話: 090-4395-5587
営 業: 16:00-23:00
定休日: 月曜日、火曜日

◎ 4月29日、5月6日 休会

次回〈5月13日〉の予定

未定